



NPO 法人アスレチッククラブよしぬま  
ジュニアユースクラブ設立趣意書

近年、児童のスポーツを取り巻く環境は、少子化、都市化、受験競争の激化などによって激変した。少子化のためスポーツを共に楽しむ児童の数が減少し、都市化の進行によってスポーツをする場が失われ、また、受験競争の激化のために児童はスポーツする時間を失った。青少年の健全な育成のために、スポーツできる環境を整備することは、社会に課せられた緊急の課題である。

アスレチッククラブよしぬま（以下、AC よしぬま）は、地域住民を対象とした各種生涯スポーツ振興に関する事業を目的として設立され、茨城県より特定非営利活動法人（NPO 法人）として認証を受けた。AC よしぬまの母体であるサッカースポーツ少年団「吉沼 FC プリマリオ」は、小学生年代の児童を対象にサッカーを中心としたクラブ運営を行い、日本サッカー協会の指導指針に基づいた質の高いサッカー指導を 10 数年実践してきた。育成を最優先の課題としており、吉沼 FC プリマリオの選手は高いレベルのスキルを習得してきた。

これまで吉沼 FC プリマリオの卒業生のほとんどは、中学校の部活動としてのサッカー部でサッカーを続けてきた。しかしながら、市内の一部中学校にはサッカー部がないため、サッカーを続けることができない卒業生があった。また、中学校のサッカー部には、小学生年代にサッカー経験が無い生徒も入部するため、スキルの格差が大きいという弊害もあった。スキルの格差は、スキルの高い選手にとっても低い選手にとっても、成長を阻害する大きな要因であり、お互いの不幸である。

近年、全国に目を向けると、中学生年代のサッカー活動を担うジュニアユースクラブの充実が顕著である。すなわち、鹿島アントラーズのような Jリーグクラブのジュニアユースチームは、将来の Jリーガーを目指すような選手の育成を担っている。しかし、Jリーグクラブの入団には厳しい選考があり、誰でも入団できるものではない。また、金銭的な負担も大きい。Jリーグクラブの選考からは漏れたが比較的スキルが高い選手の受け入れ先になっているのが、地域クラブのジュニアユースチームである。地域クラブは、質の高いサッカー専門の指導者を揃えて中学校の部活動とは一線を画しており、そもそも両者は競合関係にあるものではない。すなわち、Jリーグクラブ、地域クラブ、中学校の部活動と、スキルのレベルあるいはニーズに適合したカテゴリーが存在し、そのなかでも中核を担う地域クラブのジュニアユースチームの役割は極めて重要である。

つくば市においても、ここ数年間に複数の地域クラブのジュニアユースチームが市内に設立されたが、いずれもが学園都市中心部に拠点を置いている。つくば市南部においては、牛久市、守谷市、取手市に拠点を置く地域クラブへの入団が可能である。しかし、AC よしぬまの活動拠点であるつくば市北部に入団できる地域クラブはないため、多くの中学生がサッカーをする環境そのもの、あるいは質の高い指導を受ける機会を逸している。

このような状況下において、AC よしぬまは、傘下にジュニアユースクラブを設立することとした。すでに AC よしぬまには、中学生年代を指導できる質の高いサッカー指導者（日本サッカー協会公認 C 級コーチ）をメンバーに有しているが、さらに指導体制の充実を図るため、外部からコーチを招聘する予定である。NPO 法人である AC よしぬまは、新ジュニアユースクラブの資金的サポートと運営を担う。新ジュニアユースクラブは活動拠点をつくば市北部におき、これまで他の地域クラブの恩恵を受けることができなかった中学生にサッカーをできる環境を提供するものである。必ずしも Jリーガーを目指すレベルにない選手が主体となる地域クラブの選手にとって、高校進学も重要であるが、自宅の近くにクラブがあることで、自宅で勉強する時間を確保することが容易となる。別の角度からみると、つくば市北部に拠点を置くことは、つくば市の均衡ある発展にも寄与するものと考えられる。新ジュニアユースクラブの対象は、吉沼 FC プリマリオの卒業生はもちろんであるが、他のサッカースポーツ少年団の卒業生も受け入れる。特に吉沼 FC プリマリオの卒業生の場合、小中 9 年間、一貫した指導方針を受けられるメリットは非常に大きい。

ジュニアユースクラブの設立は、地域住民の生涯スポーツ振興という AC よしぬまの理念に沿うものである。地域の中学生年代にスポーツできる環境を提供できることは極めて意義が高いものと考えており、関係各位のご理解とご協力を切に願う次第である。